

## 工科学部の3つのポリシー

<p>アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）</p>	<p>工科学部で学修する者は、本学の使命に共感し、「社会とともにあるデザイナー」になろうとするものである。よって、自分は社会の中で何をしたいのかという動機を持ち、本学の学修過程を履修することでそれが実現されることを理解している学生を入学させる。</p> <p><b>【知識・技能】</b>          高校卒業程度の学習を終えている人          本学で学ぶに必要な日本語力を有している人</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b>          どのような専門職になりたいかという意志を持っている人          自分の考えを伝えるためのコミュニケーション力を有している人</p> <p><b>【主体性・協働性】</b>          社会にどのような貢献をしたいかという動機を持っている人</p> <p><b>【意欲】</b>          制作意欲を含み、学修動機が明確な人</p>
<p>カリキュラム・ポリシー（大学教育課程の編成・実施方針）</p>	<p>工科学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけることができるように、以下のように教育課程を編成する。このように体系立てられ編成される教育課程に対し、学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方は以下のように定める。</p> <p>&lt;教育課程の区分&gt;</p> <p><b>【基礎科目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広義のデザインにおける感性的思考を支援する知識・理解の科目を置く。</li> <li>・ “Designer in Society（社会とともにあるデザイナー）”の根幹に当たる倫理観を確立する科目を置く。</li> <li>・ グローバルに活躍するために必要なコミュニケーションの汎用的技能を育成する科目を置く。</li> </ul> <p><b>【職業専門科目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設定された問題を解決するための理論科目と、正確な判断力を養成する科目を置く。これらの科目は職業専門科目の講義科目として配する。</li> <li>・ 問題・課題解決のために知識を総合し、価値創造の方法論を学ぶ科目を配する。</li> </ul> <p><b>【職業専門科目と展開科目における実習科目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロトタイプ開発を主軸とする実習科目を配置する。</li> <li>・ 俯瞰力と問題発見力を涵養する実習科目を配置する。</li> <li>・ 多くの実習科目を通し、新しいモノ・コトでも躊躇せず、変化を好んで対応し、対話を通じて他者と協力し、机上のデータだけではなく、自分の目で見て耳で聞く行動指針を養成する。</li> </ul>

**【展開科目】**

- ・ビジネスの仕組みと関連する知識を養成する科目を配置する。
- ・環境や社会への配慮し、持続可能な解を生み出すための知識を学ぶ。
- ・実習による実践だけではなく、協調性をもって、チームメンバーとして主体的に行動する、または、リーダーとして、指導力を発揮する原理を学ぶ科目を配する。

**【総合科目】**

- ・キャップストーン科目として「卒業研究制作」を実施する。この科目は、英語での発表を義務付けている。

**<教育内容・方法>**

**(教育方法)**

- ・本学では「担任制度」を設け、学生 10 名程度に 1 名以上の担当教員を配し、学修計画・履修登録のみならず、より良い教育及び学修を円滑に運営するための人間環境を整え「個に対する教育」を行う。
- ・職業専門科目においては、専門分化された課程での学びに取り組むために、2 年次進級時に必ず 1 つのコースに所属する。
  - ①学生は基本的に所属するコースに呼応した選択科目を修得することを推奨する。
  - ②選択科目の内、コースコア科目(選択・必修科目)を配する。所属するコースのコースコア科目を修得しないと卒業できない。
  - ③学生の多様な学びを確保するために他学科や他コースの選択科目の修得も可能である。ただし①に該当する学生の履修登録が優先となる。また、他学科の授業は自由科目(卒業要件に該当しない科目)となる。
  - ④1 年次に配されている選択科目については、各コースの基礎的な科目のため、コース定員によらずその学科に所属する全ての学生が受講できる。

**(学修方法)**

科目が初歩的なものから専門的なものへと進行する配置の中で、初歩的過程で学んだ科目内容が、どのようにして専門的な科目の基礎をなすか、また専門的科目の内容がどのようにして社会にどのように役立つかを実習科目や総合科目を通じて学ぶ。この実感が、“Designer in Society (社会とともにあるデザイナー)” の基礎となる。したがって、科目配列は特に 1 年次では最初に動機付け及びトピックへのエクスポージャを目的とした科目によって原理や理論を深く学ぶのではなく、何に使われているかを中心に理解する。その後原理や理論を学ぶ科目を配置している。これは自分が持っている社会に役立ちたいという動機が、学問によって裏付けられることを経験し、実感的動機を科目学修動機に変換させることでもある。それに基づいて、専門的な科目は動機を

	<p>満たすものとして自発的に学習することが可能となる。これを実現するために、実務経験のある教員から何を学ぶかを知り、また実習、演習、臨地実務実習なども、漫然と課題に向かうのではなく、自発的に学習するものとして位置づけることができるものとなる。</p> <p>&lt;学修成果の評価&gt;</p> <p><b>【通常授業】</b></p> <p>単位認定は所定の授業回数の8割以上の出席・課題提出を前提とし、その上で、各授業に応じて評価することとする。詳細の評価については、各種シラバスで明示する。</p> <p><b>【臨地実務実習】</b></p> <p>臨地実務実習科目においては、受け入れ先の企業との連携の重要性から、必ずルーブリック評価表を用い、公平で客観的かつ厳格な成績評価を行うこととする。詳細の評価については、各種シラバスで明示する。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)</p>	<p>本学部は情報技術を応用する領域における専門職を養成する。そのため、本学の「ディプロマ・ポリシー」を踏まえた上で、定められた課程において以下の知識・能力を修得し、教育の理念である「Designer in Society (社会とともにあるデザイナー)」に従い、ものを創ることができる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。</p> <p><b>【知識・理解】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発見した問題・課題を正しく分析する基本理論を理解し、本質(ゴール)を精査するためにモデルを構築できる。</li> <li>2. 問題・課題解決のために知識を総合し、価値創造の方法論について理解している。</li> <li>3. ビジネスの仕組みと関連する知識を理解している。</li> <li>4. 情報技術を応用する領域を主導する専門職人材として、対象領域を俯瞰する能力を有する。</li> </ol> <p><b>【能力】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 情報技術を応用する領域を主導する専門職人材として、問題を発見・設定する力を有している。</li> <li>6. 感性と教養にもとづく創造力および表現力を有している。</li> <li>7. プロトタイプを実際に開発する能力を有している。</li> <li>8. 科学的判断力を持って最適解を決定することができる。</li> <li>9. 異分野・他文化とのコミュニケーション能力を有している。</li> <li>10. 協調性をもって、主体的に行動することができる。加えて、リーダーシップを発揮することができる。</li> </ol> <p><b>【志向・態度】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 倫理観をもって社会に解決案を提供することができる。</li> </ol>

	<p>12. 環境や社会への配慮し、最適解を選択する能力を有している。</p> <p>13. 向上心を持ってトライアル・アンド・エラーを厭わず最後までやり遂げる。</p> <p>14. 原理原則で物事を捉えるだけでなく、三現主義（現場、現実、現物）で行動できる。</p>
--	---